若狭町歴史文化館

JAPAN HERITAGE 日本遺産

若狭町は、美しい海、清らかな川、五色の湖、わき出る名水、緑なす山々など、豊かな自然にめぐまれています。その恵みのなかに、私たちの先人の営みの証として多くの遺跡があります。

なかでも、縄文時代の鰣(はす)川流域の鳥浜貝塚・ユリ遺跡は全国有数の丸木舟の出土地で11艘が出土し、また古墳時代に築かれた北川流域の上中古墳群は、わが国を代表する歴史遺産として国内外に広く知られています。このうち、鳥浜貝塚・ユリ遺跡の出土品については、若狭三方縄文博物館にてご覧いただけます。

ここ若狭町歴史文化館では、北川地域を中心に展開する前方後円墳や巨大な円墳などからの出土品を紹介します。国・県指定史跡に選ばれた古墳も数多く、1500年前の大陸との結びつきを語る貴重な出土品も含まれています。

この展示を通じて、膳臣(かしわでのおみ)として名を残す若狭の王たちが、東アジアを舞台に活躍した輝ける時代に、思いをはせていただきたいと思います。

畿内への道(熊川宿・琵琶湖をのぞむ)

日本の歴史遺産が息づく若狭町

若狭町には、縄文時代の鳥浜貝塚、海を越えた交流を物語る古墳時代の前方後円墳や出土品、若狭と京を結ぶ鯖街道の拠点・重要伝統的建造物群保存地区の熊川宿(くまがわじゅく)があります。これらは、わが国を代表する歴史遺産です。

奈良の飛鳥板蓋宮跡地(あすかいたぶきのみやあとち)では、三方地域から送られた鯛納付の最古(683年以前)の木簡が出土しています。古墳時代から律令時代へと、大和政権との関わりを強めながら、若狭地方は御食国(みけつくに)としての重要な役割を担っていきます。若狭町・小浜市は「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ― 御食国若狭と鯖街道 ―」として日本遺産の第1号認定を受けています。

さらに熊川宿、鯖街道と、若狭町の歴史遺産は現代にも脈々と息づいています。

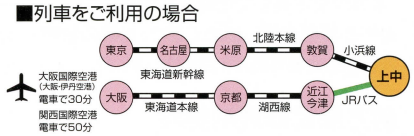
若狭町歴史文化館

〒919-1592 福井県三方上中郡若狭町市場20-17
TEL 0770-62-2711　FAX 0770-62-2728

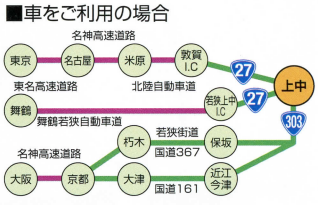
◆開館時間／AM9:00～PM5:00(入館PM4:30まで)　◆入館無料
◆休館日／毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌水曜日)、年末年始

交通のご案内

■列車をご利用の場合



■車をご利用の場合

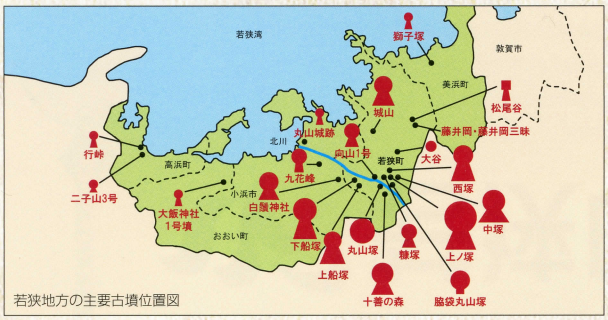


■若狭上中I.Cから車で約10分　■近江今津から車で約30分

若狭地方の古墳時代のはじまり

若狭町上中地域の特性

上中地域は、北川を下ると、朝鮮半島や九州への航海の玄関口である若狭湾にすぐにたどりつけ、また南下すれば、近江を経て大和へ至る最短路に位置しています。つまり、交通の要衝にあるといえるのです。これらのことが上中地域に重要な古墳が造られた大きな理由であったと考えられます。



若狭地方の主要古墳位置図

上ノ塚古墳の出現と脇袋古墳群

若狭地方最初の前方後円墳は、5世紀初めに上中地域の脇袋に造られました。それが若狭地方最大の全長100mという規模を誇る上ノ塚古墳（国指定史跡）です。若狭地方の古墳時代のはじまりと、若狭が東アジアの表舞台に登場したことを告げる前方後円墳と言えます。この後、次々と若狭の王墓は、上中地域を中心に造られていきます。

脇袋古墳群の上ノ塚、西塚、中塚、糠塚と続く4基の前方後円墳は、いずれも平地に造られ、表面には葺石、埴輪を備えています。上ノ塚、西塚、中塚は盾形の周濠外周斜面にも葺石を有し、格の高さを見せています。脇袋丸山塚古墳（帆立貝式古墳）は丘陵部に築かれていることから、畿内から派遣された官僚の墓とも考えられます。

脇袋古墳群の背後に、膳部山があり、当古墳群の被葬者を膳臣とする有力な根拠のひとつとなっています。まさにこの地は王家の谷とよぶにふさわしいところです。

西塚古墳の石室からは、金製耳飾、鏡、金銅製帯金具、銀鈴、銅鈴、馬具、冑など多彩な副葬品が発見されました。この石室も大陸の影響を受けた特徴的な形態をしています。5世紀後葉の前方後円墳です。

脇袋古墳群全景（西側より）

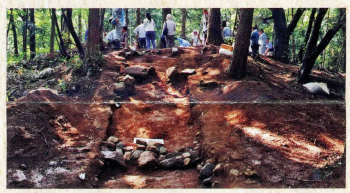
松尾谷古墳

若狭地方では、前方後円墳に先だち4世紀前半に、全長35mの前方後方墳、松尾谷古墳が丘陵尾根上に造られました。

全景（前方部側より）

藤井岡古墳・藤井岡三昧古墳

松尾谷古墳の南側につくられた5世紀初めの円墳です。葺石・埴輪を備えた古墳群です。


藤井岡古墳（北側より）

本州最古の横穴式石室

全景（前方部側より）

向山1号墳

向山1号墳は、脇袋古墳群の西1.5kmの尾根上に、5世紀中ごろに造られた全長48.6mの前方後円墳です。中規模ながら二段に造られ、葺石、埴輪を備えています。石室は、墓道が、前方部方向に開口する初期の横穴式石室です。韓国あるいは北部九州から伝わった、本州でもっとも古い横穴式石室です。中から、多くの副葬品が出土しました（福井県指定有形文化財）。なかでも、2領の短甲が奥壁両隅に納めてあり、左隅の短甲内部から金製耳飾が1点出土しました。

前方部武器埋納施設

前方部にも、武器、武具だけを納めた長方形の施設が見つかりました。それらの埋納品と石室出土品から、被葬者は武人的性格を備えていたことがわかります。

新たな朝鮮半島との交流

十善の森古墳

天徳寺古墳群に位置する十善の森古墳は、全長68mの前方後円墳で、6世紀初めに造られた古墳です。後円部には、主軸に直交する羽子板状の平面形をした玄室と、玄門部から「ハ」の字形に開く短い墓道をもつ横穴式石室があります。副葬品として、伽耶産の鈴付鏡板が出ていますが、同時に百済との交易の開始を裏付けるような百済産と思われる冠・履や蜻蛉玉が見られます（福井県指定有形文化財）。つまり、十善の森古墳の築かれた時代は、東アジアにおける新たな朝鮮半島と倭国の関係の開始時期にあたります。

十善の森古墳　冠帽模造品

玄室玄門

（写真提供：福井県立若狭歴史博物館）

若狭地方最後の前方後円墳

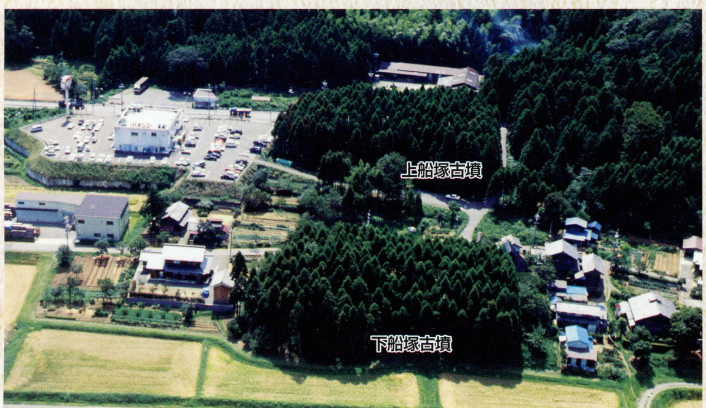
天徳寺古墳群の西に、日笠古墳群があります。その中心的存在として、緩やかな斜面上に、上船塚古墳と下船塚古墳の2基の前方後円墳（国指定史跡）が並んで造られています。若狭地方の王墓は、下船塚古墳を最後にして前方後円墳から円墳にかわります。

上船塚古墳

上船塚古墳は、現況全長70mで、周濠がめぐり、6世紀前半に造られました。

下船塚古墳

下船塚古墳は、現況全長85mで、周濠がめぐり、6世紀中ごろに造られました。



巨石墳の出現

若狭地方では、従来の大型前方後円墳にかわり、6世紀中ごろから、丸山塚古墳や大谷古墳のような円墳に、巨大な石材を用いた横穴式石室が造られるようになります。大和政権との関わりの強さをうかがうことができます。

丸山塚古墳

丸山塚古墳は50mの巨大な円墳でした。しかしながら、昭和28年にこの地方を襲った大水害の復旧の犠牲となりました。石室は、玄室長6m、羨道長11mの巨大なものでした。副葬品としては、鏡、飾大刀、馬具、鉄刀、甲、水晶製三輪玉、須恵器などが発見されました（福井県指定有形文化財）。6世紀中ごろに造られた古墳と考えられます。

丸山塚古墳 石室断面（玄室側より玄門をのぞむ）

大谷古墳

尾根中腹に築かれた直径27.5mの円墳です。石室は、玄室長5.1m、羨道長5.6mを測ります。副葬品としては、馬具、飾大刀、鉄鏃、玉、須恵器などが知られています。6世紀中ごろに造られた古墳です。

大谷古墳 玄室（奥壁側から羨道方向）